

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第6回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

- ・ 「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

(2) 自主的審議事項

- ・ 津有区の特長を生かした地域活性化策について

3 開催日時

令和3年10月25日（月）午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：猪俣敦子、大滝英夫、千代金治、相馬祐一、田中博三（副会長）、中島 功
藤本孝昭（会長）、古川勝夫、古川 仁（欠席3名）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・ 会議録の確認者：千代委員

次第 2 議題「(1) 協議事項」の『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1 に基づき、意見集約の結果を報告

【藤本会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

資料 1 は、今後の地域協議会の運営に関して、各委員より提出された意見を集約したものである。

まず、「ア 意見交換について」では「住民組織などとの意見交換を」との問いに対して、8 人が「①一層活性化していく」、3 人が「現状維持で良い」と回答している。

「現状維持」の考え方については、すでに実施しているという意味もあるだろう。津有区としては、町内会長との意見交換を今年 2 月に実施しているが、まだ 1 回のみである。資料 1 の集約結果では、どちらかということ、定期的実施してはどうかとの意見が多いと感じているが、意見交換について意見を求める。

(発言なし)

町内会長以外にも、「他団体との意見交換を実施してはどうか」という意見がある反面、「地域協議会としてあまり間口を広げると、会の役割を逸脱するのではないか」との意見もある。

こういった意見も含めて、住民組織との意見交換について意見を求める。

【田中副会長】

委員の中に、現役の町内会長が 2 人いるため、彼らに確認したい。

これまで定期的に意見交換を実施してきた、お互いに役に立っているのか、また 2 年に 1 回程度の実施でもよいのか等を聞きたい。

【古川 勝夫委員】

今年度から町内会長を務めている。

昨年度、町内会長との意見交換を実施したが、意味があると思っている。月 1 回となると仕事等で都合が付きにくいと思うため、昨年度のように、年 1 回程度の実施がよいと思う。

【中島委員】

自分も年 1 回程度の実施でよいと思っている。問題点を 1 つ・2 つに絞るようなやり方をしなければ、「若者がいない」「過疎化」「空き家」等、いろいろな問題が出てきてしまい、まとまらないと思う。そのため、町内会長との意見交換は年 1 回程度でよいと思う。

また、他団体等との意見交換についても、前回、前島密翁の話が出てきたこともあり、それに的を絞り意見交換を行わなければ、まとまらないと思う。

【藤本会長】

他に意見はあるか。

【相馬委員】

町内会長との意見交換は大変よいが、前回の会議で出された、「空き家が多い」「子どもがいない」等の問題は、話し合っ解決するのか、疑問である。

地域の若い人たちが祭りをしているといった話を他の町内会長が聞き、「うちの町内でもやろう」といった話になればよいが、それを立ち上げるとなると大変だと思う。多分、やることは簡単なのだが、継続していくことが大変である。

そういったことも考えると、1 回話し合う程度でよいと思う。

毎年意見交換を行い、最終的に何かを解決できるかどうかは、全く別の問題である。

【藤本会長】

今の発言は、意見交換について「年 1 回程度であれば行ってもよい」ということなのか、「1 回だけ行い、その後は行わなくてよい」ということなのか、どちらか。

【相馬委員】

問題点だといって、「空き家」「子どもがいない」「木を伐採してほしい」と、そのような話ばかりを出されても地域協議会ではどうすることもできず、最終的な解決にはならないと思う。地域協議会で解決できるような話であればよいが、そうでなければ話を聞いているだけになってしまう。

意見交換は実施したほうがよいが、逆の気持ちもある。他にもいろいろな情報が聞けるため、実施することはよいが、実施しても 1 回程度でよいと思う。

【大滝委員】

町内会長は町内会長協議会の集まりが年に何回かある。例えば、その中で出た地域の問題等について、地域協議会が審議する方法は考えられる。

町内会長協議会の議事録を地域協議会として入手できれば、町内会長協議会が出さ

れた要望のようなものを地域協議会で取り上げることで、的を絞りやすくなると思う。

【藤本会長】

中島委員からは、意見交換の頻度とは別の問題として、「話題を焦点化しなければ集まっても意味がない」という話があった。それに加えて相馬委員からは、「解決できないことを話し合っても、地域協議会では何もできない」という発言があった。

それらの対応として、あらかじめ町内会長に「こんな話をしたい」と伝えて意見交換をする、或いは町内会長協議会で問題になっていて、地域協議会として関われる内容に関わる。このように整理できると思う。

次の問題として、意見交換の進め方が大きな課題となってくるが、今この場で細かく決めるわけにいかないと思う。事前に町内会長協議会長とよく相談する必要がある。

地域協議会はどういうことができるのか、どういう役割を担っているのかを、町内会長に理解いただいた上で話をすることが大事である。そうでなければ、何となく集まって「困っていることを言えばよい」という雰囲気になってしまうため、よくないと思う。

以上のようなまとめ方でよいか。

(よしの声)

意見交換を実施する場合には、双方にとって意味のある会合になるように、もう少し細かいステップで考えていく必要がある。本日は結論が出せないが、そのような方向性でよいか。

(よしの声)

8月30日に前島記念館の利根川館長より来ていただき、前島密翁について研修を行った。先日は正副会長と事務局、そして利根川館長で津有地区の小中学校に伺い、校長先生と話をしてきた。

今後、各学校の関係者や前島密翁に関わる団体等と話をすることが必要になってくると思う。

だが、資料に記載されているように、「地域協議会としてあまり間口を広げると、会の役割を逸脱するのではないか」という意見もあり、板挟みになっている。

この辺りについて、意見等あるか。

【千代委員】

その意見を出したのは自分である。

前島密翁の審議に関しては、津有区の町内会長や関連団体の方々とコンタクトを取りながら、間接的にでも関わって進めていくことがよいと思う。

ただ、あまり我々の役割から逸脱してもよくないと思い、この意見を書いた。

【藤本会長】

他に意見等あるか。

【猪俣委員】

自分は津有区のことを全く知らないような状態で地域協議会に参加し、1年が経過した。とにかくいろいろな人の意見を聞いて、共有していきたいとの思いが強くある。

確かに、「間口を広げると」といった意見もあるが、いろいろな人の意見を聞いて理解していくことはとても大事だと思う。

【藤本会長】

では、住民組織など意見交換については、ここまでとする。

次に「イ 会議運営について」である。

大きく2点あるが、まず「会議運営（開催日時、回数など）」についてである。資料1を確認の上、意見を求める。

【古川 仁委員】

自分はまだ現役で勤めているため、現状の開催日であれば、予定が組みやすい。

「改善の意見」は個々の意見だと思うが、土・日は忙しいため、できれば平日がありがたい。また事務局のことを考えると、やはり休日の開催は厳しいと思う。現状の開催日時・回数でよいと思う。

【大滝委員】

仕事の関係もあるかもしれないが、毎回、数人の委員が出席できない状況にある。

本日欠席の委員も含めて、「この日であれば出席可能」といったアンケートを取って再度確認してはどうか。なるべく多くの委員が出席できる日時を設定して、会議が開催できればよいと思っている。できれば全員参加が1番望ましいので、曜日等を変更することで出席率がよくなるのであれば、開催日時を変更すればよいと思う。

【藤本会長】

実際、本日は3人が欠席である。

アンケートは事務手続きが少し煩雑だと思う。また、会議の中で議論するとしても、欠席委員の意見を聞くことはできない。

例えば、次回の開催案内を出す際に、月末の月曜日の18時半からとしている定例の開催日時について、どのような考えがあるかを問うてはどうか。会議に出席する委員は、その場で言ってもらえばよい。欠席の委員については、あらかじめ事務局に希望を伝えてもらえばよいと思う。

この件については、本日は欠席委員もいるため、これ以上深めることができない。アンケート様式ではなく、会議の開催案内の中に盛り込み、次回の会議の中で整理することとしてはどうか。改めて委員の意向を確認したいと思う。

【中島委員】

曜日や時間を決めたとしても、皆、何かしらの状況があると思う。「定例の開催日時を決めたため、必ず出席」にはならないようにしてほしい。

自分もいつどうなるか分からないため、その辺は柔軟な会議運営をお願いしたい。

【藤本会長】

問い方は、「任期も中盤となったため、改めて確認をしたい」程度でよいと思う。工夫して対応したいと思う。

次に「進行方法（視察や研修、発言の機会、分科会など）」についてである。「研修や視察」については、すでにやってきていることであり、今後も可能な範囲でやれるところからやっていきたいと思う。

問題は、「改善の意見」の2つである。「内容によって分科会・グループワーク等の話し合いの場を設け、委員が発言しやすい雰囲気が必要」、「発言は委員の責務ではなく、発言のしやすい運営をするのが望ましい。それには小規模な話し合いの場を設けることが必要ではないか」と記載されている。

以前、課題を洗い出す際に、津有地区の北部と南部に分かれての話し合いを何回か行い情報交換をし、全体会でまとめた。また、町内会長との意見交換では、いくつかのグループに分かれて行った。

グループワークを行ったほうがよい内容と、委員全員の意見を聞かなければならない内容があり、ケースバイケースだと思う。臨機応変に考えるということではどうか。

(よしの声)

最後に「ウ 情報発信について」である。

「改善の意見」の中に、「協議会について『何をしているか分からない』と言われる可能性もあるため、情報発信は必要」、「本組織の存在と活動内容を理解されている方

は、まだごく少数だと思う。もっと周知されるようアピールが必要。関心がなければ、文章読んで終わりになってしまう」とあり、地域協議会が何をやっているところなのか、なかなか理解いただけない一面があると思う。

また 1 番下に記載されているが、地域協議会だよりは一方通行の情報伝達であり、配りっぱなしの状況である。そのため、地域住民がどのように思っているのか全く分からない現状である。地域住民が本当に理解しているかは、フィードバックがなければ分からないと思う。

例えば、地域協議会の会議録がホームページにすべて掲載されているにも関わらず、見ていない人が多いと思うため、見てもらえるようにどう仕向けるかが課題だと考えている。

【千代委員】

地域協議会だよりが各町内を通じて配布されている。それをどれだけの人が読んでいるのか気になる。自分は地域協議会に携わっているため見ることがあったとしても、地域住民はどれだけ地域協議会だよりを見ているのだろうか。

ホームページやSNS等は、自分たちのような年寄りはやっていない人が多いと思うので、何か知ってもらおうチャンスがほしいと思う。

【藤本会長】

なかなか簡単には結論が出ない部分だと思う。ただ、見てもらえるような内容を心がけることが大切だと思う。

1 番簡単なこととして、学校の便りも同様であるが、文字が多いものはまず見る気がしない。逆に、絵や写真があると見る。多くの人に見てもらうためには、「字数制限」が課題だと思う。だが、そうすると今度は、伝えなければならない内容が伝わらないという難しい側面がある。

工夫できるところは工夫していく、ということでよいか。

(よしの声)

いただいた意見は、今後の協議会運営や市全体の会長会議での参考とする。

以上で次第 2 議題「(1) 協議事項」の『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について」を終了する。

次に次第 2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

・資料2・3、その他資料について説明

【藤本会長】

資料2は、前回の協議会の振り返りとして、今後の進め方等をまとめたものである。

その中で「小中学校に保管されている資料を確認してはどうか」との意見があったため、先日、前島記念館の利根川館長にも同行いただき、正副会長で学校訪問を行った。その結果をまとめたものが資料3である。

本日は、関係団体との意見交換を行う前に、前島密翁についてももう少し深掘りし、理解を一層深めるために、前島密の生涯をまとめた資料や、公民館で作成された歴史マップも配布している。

まず、これらについて、質問や意見等、1人ずつ聞いていく。

【古川 仁委員】

質問である。小中学校の子どもたちは前島記念館に行く機会について、学校から何か説明はあったか。

【藤本会長】

事務局より補足願う。

【小林センター長】

今回の学校訪問は、事務局も同行した。

訪問した際の自分の感想も含めて話をする。小中学校3校の児童・生徒に対して、前島密翁に触れる機会をどこまで持たせているかは、確認できていない。学校教育の中でどのように取り入れているかについて、次回の会議までに確認したいと思う。

3校回ってきたが、どの学校にも前島密翁の書が残っていた。非常に達筆な人であり、多くの書を残したとのことである。どこの学校でも、体育館や玄関に書を飾っており、想像以上に前島密翁が津有区の子どもに浸透していると感じた。

また、先生方と話をする中では、例えば柳沢謙先生や上雲寺の中村先生等、実は津有地区は多くの人材を輩出している地域だと、改めて実感した。

【藤本会長】

次に古川 勝夫委員より発言願う。

【古川 勝夫委員】

今回は前島密翁で進めているが、この地域には多くの偉人がいるため、これをはじめ

めとして、いろいろな偉人を紹介するようなかたちにはどうか。

【藤本会長】

次に中島委員の発言を求める。

【中島委員】

いろいろと調べた中で、資料3の写真にある戸野目小学校の副読本「ふるさと戸野目」をなんとか復刻版で出してはどうか。この本は、本当に小学生が理解できたのかと疑うほど、事細かに書いてある。こういったものもよいと思う。

また、来年の下池部の献碑祭に向けて、小中学校に保管されている前島密翁の書や関連する資料をまとめて一斉に、どこかで展示できればよいと思っている。非常に貴重なものであるため、簡単にはできないかもしれないが、来年の100周年に向けて、地域協議会としてできることの1つではないか。

【藤本会長】

次に相馬委員の発言を求める。

【相馬委員】

多分、自分が小・中学生の頃に今の新しい建物ではなく、古いほうの前島記念館に見学に行ったことがある。実際にいろいろなものが展示されていたが、子どもであったため特に興味もなく、「切手がある」程度にしか記憶がない。

今、津有区の地域協議委員会で前島密翁を盛り上げようと協議しているため、地域協議会だより等でもっと地域住民から興味を持ってもらえるよう、どんどん発信してはどうか。

【藤本会長】

次に千代委員の発言を求める。

【千代委員】

「鴻爪痕」を見て、やはり母親がすごいと思った。幼少期に糸魚川に移り住み、高田には何年もいないうちに東京に出た息子を、叱咤激励しながら学ばせたことを知り、母は強いと思った。それが前島密の原動力であり、明治維新になってからの彼の活躍に表れていると思った。

ただ、自分のものをあまり残さなかったようであり、それが残念である。幼少期を過ごした糸魚川方面や下池部の近辺で、個人的に書などを寄贈されていた人がいないか調べることで、新たな発見があると思う。

あまり資料を残さなかった人であるが、学校に保管されている資料以外にも何か出てくればよい。先ほどの中島委員の発言は大切なことであるため、ぜひやってほしいと思う。

また、地元の子どもたちが、昔の偉人たちに目を向けていくこともよいと思う。各学校で学年を決めて遠足がてら、偉人を学びに行くこともよい。

【藤本会長】

前島密の母親は、頸城村の井澤家へ後添えに出ているのだが、最後、密は自分の元に呼び寄せている。また資料等で紹介できればよい。

【大滝委員】

密は学校等に多額の寄付をされたとのことだが、彼の思想や信仰する宗教について、自分は興味がある。

例えば信仰していた宗教が仏教であれば、地元の寺から何か資料等が出てくるかもしれない。あまり宗教に拘らない人だったのかもしれない、憶測で話をしているが、自分は気になった。

【藤本会長】

今までにない視点での提案であった。

宗教的な背景について調べることは難しいが、少なくとも津有区にある寺院に関連する資料等がないか聞くことは可能だと思う。今後の1つの選択肢として考えられると思う。

次に猪俣委員の発言を求める。

【猪俣委員】

事前に送付された資料を見て、前島密という人物や育ってきた地域、関わってきた人たち等、いろいろなことに興味を持つことができた。そこをきっかけとして、津有地域がどのようなところなのか、勉強してみたいと思った。

そして、小中学校の子どもたちにも、地域の偉人を通じて地域を知ってもらえるとよい。

【藤本会長】

次に田中副会長の発言を求める。

【田中副会長】

自分も学校訪問に同行したが、これ以上ないくらい十分な資料で、読み返せば読

み返すほど、視界が広がっていくように感じた。

だが子どもたちには難しいため、分かりやすい子ども用のパンフレットと、観光・一般用の興味深い書き方をした資料に分ければ、もっと親しみを持てると思った。

地域協議会としてそれらの資料を作る場合には、どんな団体と協力し、または組織を作って、どのように内容を決めるかに懸かってくると思う。

地域協議会は守備範囲があるため、主体性を持って行う部分と、協力していく部分を、事務局から範囲を絞ってもらってはどうか。

また、前島密翁献碑実行委員会の会長の考え方を聞き、広め方を考えていってはどうか。

【藤本会長】

本日は今後の進め方等について、各委員の意見を確認した。出された意見を踏まえて正副会長と事務局で整理し、次回の会議までに方向性をまとめたと思っている。

そのような方向で進めてよいか。

(よしの声)

次回の会議では、少し整理したものを示し、それについて深めていきたいと思う。

【中島委員】

次回の地域協議会だよりの中で、前島密翁に関する資料を所持している地域住民を募って、情報提供を得ることも1つの方法と思う。

【藤本会長】

意見として受け止めたいと思う。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」を終了する。

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

本日は視察について、特に具体化がされなかった。次回の地域協議会ではさらに話を深め、具体的なアクションをどうするのか、見越したかたちで進めていきたい。

・次回の協議会：11月29日（月）午後6時30分から 津有地区公民館 大会議室

・内容：自主的審議の続き

他に何かあるか。

(発言なし)

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。